



## 2022 FIFAワールドカップから

副校長 更科 和也

夕方に校内を巡回していると日が落ちる時間が早くなったことを感じます。真っ暗な夕闇の中に、きらびやかに輝くみなとみらいの灯り。横浜の夜景の美しさを満喫できる贅沢なひと時です。

先月20日にカタールでサッカーワールドカップが開幕し、連日熱い戦いが繰り広げられています。日本代表戦の結果に一喜一憂されている方も多いのではないのでしょうか。私自身もサッカーが大好きで、11月の朝会では日本代表のユニフォーム姿で、日本代表選手とその対戦国について話をさせていただきました。

今回のワールドカップを見ていて、勝利するチームにはいくつかの特徴があることに気づきます。まず一つ目は、若手選手の活躍です。主軸が20代前半という国も多く、中には18歳でゴールをあげている選手もいます。6年生と大きな年齢差の無い選手たちが、世界の舞台で活躍していることに驚きを感じます。恐れを知らない勢いのあるプレーは、チームに勝利を呼び込みます。二つ目は、自分の強みを組織の中で大いに生かしていることです。スピードのあるドリブル、強力なシュート、デュエルの強さ等、一人ひとりが得意とするプレーは違います。自分の長所を磨き上げ、それをチームの戦術に合わせて発揮する。個の力を生かしきれているチームが、勝利をつかんでいるように思います。三つ目は、メンタルの強さです。とかく根性論・精神論が敬遠される傾向にありますが、極限状態において最後に頼るべきは気持ちです。ドイツのゴールキーパーが対戦後に語った「強い意志で挑んできた日本に押された。」という言葉にも、そのことが表れています。絶対に勝つという強いメンタリティが実力を上回る。格上の相手を倒す大金星が続く今大会において、この考えが証明されていると思います。

そして、この特徴は先日行われた「歌声発表会」「稲荷台フェスティバル」にもぴたりと当てはまります。2学年ずつ行われた歌声発表会では、若い歌声が体育館に響き渡りました。1年生のはきはきとした元気な歌声から、重なりが美しい6年生の歌声まで、学年に応じた楽曲と音色は聴く人々に感動を与えてくれました。パートごとに分かれたり、楽器を使ったり、指揮をしたりする場面では、個々の特徴を生かしながら、まとまりのあるハーモニーを奏でていました。稲荷台フェスティバルでは、PTA役員の方やバザー委員の皆さんを中心に、今年こそは何とか実施しようという強い気持ちをもって、数カ月前から着々と準備を進めてきました。感染症拡大の不安と闘いながらも、子どもたちの笑顔のためという強い意志を貫いた結果、天気予報まで覆して大盛況のうちに幕を閉じました。

2022年も残すところ一ヶ月となりました。日本代表が使用したロッカールームは、試合後きれいに整理され、感謝のメッセージと折り鶴が置かれていました。日本のサポーターは、試合観戦後に観客席のゴミを拾い、その善い行いが他国にも広がっています。誇り高い美しい心を見習い、感謝の気持ちをもって今年一年を締めくくりたいと思います。今年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。そして…、がんばれ日本！